

# 神奈川は本当にいい所です。 地域の役に立つ仕事がしたい

税理士・行政書士

かめしげ  
亀重恵美子

さん 創価大学経営学部卒業

「やっぱり中小企業の方々にとつては厳しい状況ですね。もちろん業績を伸ばしているところもありますが、今年になってお仕事が減って、資金繰りに苦労されているといった話も多くて……」

神奈川県相模原市の相模大野駅の商店街に事務所を構える亀重恵美子さんは、こう語る。

相模原市は人口七〇万を超える神奈川県第三の都市で、県北部の政治、経済、文化の中心となつている。商店街はセンスがありながら、人情味あふれる雰囲気にも包まれている。しかし、亀重さんのもとにやってくる中小企業や個人商店の経営者は、景気低迷と物価上昇という波にもまれながら、日々奮闘しているというのが現実だ。

「専門家でないかわからないような税制度もいろいろあるので、そういうものを使って節税対策を考えると、売上や経費などを分析して経営をアドバイスするのが仕事です。でも、面談していると、人生相談みたいな感じになることも多いですね」



と、亀重さんは微笑みながら話す。今でこそ感謝しつつ税理士として活躍し、多忙ながらも明るい毎日を送る亀重さんだが、一〇代までは経済苦や家庭不和に悩む日々だった。静岡で生まれた亀重さんは、十歳の時、父親が事業に失敗。母親が働いて一家を支えたが、その後も、事業を起こしては失敗する父のために家計は困窮し、一時は進学をあきらめていた。

電話で丁寧、にこやかに対応する亀重さん

「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るな」との言葉が文系校舎の入口に立つブロンズ像には刻まれています。「人のために、自分のため」と毎年、多数の司法試験合格者、公認会計士・税理士合格者、教員採用試験合格者が巣立っています。そして卒業生は、国内はもとより世界各地で活躍しています。

た両親が望んでいた税理士之道をめざす。

「試験に合格するには一日一〇時間勉強しなければいけないと、中央図書館で毎晩閉館時間の九時まで勉強しました。勉強だけでなく大学祭の実行委員をやったり、朝方まで寮友と人生を語り合ったり、本当に忙しい毎日でしたが充実していました。創価大は先輩後輩の絆がすごく強いんです。寮の先輩には本当にお世話になりました。今でも何かあると電話して相談にのってもらっています。それから、今なお、心に残っていることと言えば、創立者がスピーチの中で『波乱万丈』こそ、わが人生の誉れなり』と言われたことです。大学で良い方々にたくさん巡り合うことができ、私の人生は大きく変わりました」

日本の企業の九割は中小企業だ。そこで働く人々の力になりたい、地域や弱い立場にある人のために役立ちたいという亀重さん。神奈川が大好きだと言う亀重さんの誠実な挑戦はこれからも続く。



Kameshige Emiko

かめしげ・えみこ／一九七七年伊勢原市立山王中学校卒業。八一年神奈川県立秦野高校卒業。八五年創価大学経営学部卒業。八五～九一年、アーサー・アンダーセンアンドカンパニー勤務。九一～九二年、ブライズウオーターハウス勤務。九二年、川崎市中原区で独立開業。現在、相模原市、亀重恵美子税理士事務所所長。夫、二男一女の五人家族。